

# My GEO STORY vol.6

地元で活躍する人を紹介

石渡 江里子さん (テレワーク勤務・森の音楽家)

今、北軽井沢は移住者に人気だ。「地元の人がこの良さを分かっていなくて、もったいないですね」と開口一番語る石渡さんは、夫婦で引っ越してきて5年目。二人して自然大好き派だ。近くの牧場を歩いたり、時々庭でオカリナを吹いて自然を満喫している。「きっと、蝶が大好きで散歩好きの父の影響かもね」と言葉のテンポも速い。でもこちらに来て2年半は新幹線で都内に通う日々を過ごした。夫婦一緒に時間が制約された。勤務先のリサーチ会社が特殊な処理を得意とする彼女のために、今は在宅テレワークに切り替えてくれたのでゆとりが生まれ、再びピアノを購入。石渡さんは4歳からピアノを始め、武蔵野音大を卒業後、音楽教室で教えたのが社会人の最初だったから、ピアノはいわばライフワークだ。昨年地域でピアノ活動を再開し、3～4回演奏会に立った。北軽ミュージックホールのサポーター活動にも参加するなど地域との交流も合間をみてこなす。暮らしてみて如何ですか？と聞くと「長野原町と嬭恋村の見えない壁のようなものを感じて戸惑うことがあります。浅間高原は一つのエリアなので、一体的にやれることがいっぱいありそうなのにもったいないですね」と地域愛トークが弾む。



家族と一緒に笑顔の石渡さん

# ジオジオ豆知識 vol.6

豆知識を専門家が解説

岩神の飛石と浅間山 ー前橋から遥か浅間山を想うー

前橋市の町中の岩神稲荷神社の裏手にひととき目立った存在感を示す国指定天然記念物の巨礫「岩神の飛石」の起源は、赤城山か浅間山か長い間わからないままでしたが、平成25年から3年間かけて岩神の飛石の起源を探る研究が行われました。

火山岩の組織や岩石を構成する鉱物の種類は、起源となったマグマの冷え方や成分の違いを表します。また、マグマの中で成長した鉱物は、その時々マグマの成分を年輪のように記録しています。これらの知識を役立て、岩神の飛石とこれに類似する数々の岩石を比較した結果、岩神の飛石は中之条町指定天然記念物「とうけえ石」とほぼ同質であることがわかりました。吾妻川沿いに岩神の飛石と同質の巨礫があるということは、岩神の飛石は、嬭恋村方面から吾妻川と利根川を経て前橋市まで運ばれたと考えられます。



解説：菅原 久誠 学芸員 (群馬県立自然史博物館)

写真：前橋市の町中の岩神稲荷神社 国指定天然記念物「岩神の飛石」



# あさまびと

Vol.07 2018冬号

特集：天明3年浅間山噴火災害と供養塔



写真：浅間牧場天丸山から見たダイヤモンド浅間 (2018/11/1(木) PM15:50頃)



## イベント情報・活動報告

- 平成31年1月16日(水) ジオカフェ (嬭恋村地域交流センター)
- 平成31年1月20日(日) 川原湯温泉 湯かけ祭り
- 平成31年1月30日(水) 浅間山北麓ジオパークフォーラム
- 平成31年2月23日(土・日) ジオパーク関東大会 (筑波山地域)
- 平成31年2月29日(土) 北軽井沢炎の祭り



【吾妻峡モニターツアー】  
2018年10月21日(日) 吾妻峡にてモニターツアーを行った。雲一つない晴天の中、吾妻峡や植物についての説明を聞き、肌で感じながら散策を行った。完全な紅葉にはまだ早かったが、赤・黄・緑と入り混じった美しい光景に出会えた。



【ジオパーク全国大会】  
2018年10月6日(土)～8日(月) 第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳(北海道様似町)が開催された。広大な大地の上に立ち、自然と触れ合い、アイヌ文化と共に生きるこの地域はまさにジオパークであり、なにより人の良さが素晴らしい。素晴らしい光景に出会えた。

発行元：浅間山ジオパーク推進協議会  
Mt. Asama Geopark Promotion Council  
〒377-1524 群馬県吾妻郡嬭恋村鎌原494-45  
TEL/FAX：0279-82-5566  
U R L：www.mtasama.com  
E-mail：geo-asama@vill.tsumagoi.gunma.jp  
Facebook：www.facebook.com/asamageopark  
制作担当：広報・観光委員会

ガイド案内の受付しています  
「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ジオガイドによる案内(有料)の受付をしております。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。  
【料金表】  
ジオガイド 半日¥5,000～8,000  
1日¥10,000～16,000



### 編集後記

12月から、ひと月に一回ジオカフェを開催します。飲み物を飲みつつ、お菓子をつまみながら皆で雑談をします。会話の中にスパイスとしてジオパークを加えつつ楽しく過ごすことが目標です。ジオパークを知らない方も交流できたらいいなと思っています。参加者募集中です。



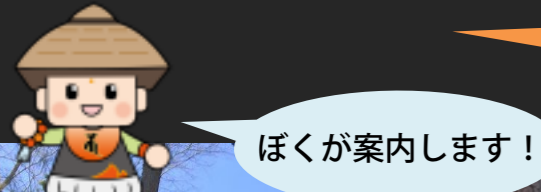
【みんなでダイヤモンド浅間を見に行こう】

ジオパークのガイドの案内で、浅間山や浅間牧場にまつわる逸話などを聞き、浅間牧場を周遊し、浅間牧場にまつわる逸話を最後にダイヤモンド浅間を天丸山より見た。

夕暮れの空、  
澄んだ空気に光り輝く浅間山

ダイヤモンド浅間。それは浅間山の山頂に太陽が差し掛かる瞬間にのみ見ることの出来る光景。富士山に似て、非常にきれいな形をしている浅間山。そんな浅間山に太陽が沈み始め後光が差したかのような様子は、言葉にできない感性に訴えかけてくるものがあり、何か見えない力のようなものを感じた。  
またこの日は、日の沈むギリギリまで浅間山に雲がかかっていたが、奇跡的に太陽が雲から出てきて沈んで行く瞬間を見たことは、感動をより大きなものにしたのかもしれない。そして、見る方角によって様々な顔を見ることが出来るのも浅間山の魅力でもあり、自分だけのお気に入りのダイヤモンド浅間を探すのも面白いだろう。

# 天明3年浅間山噴火災害と供養塔



ぼくが案内します！

関東地方の様子を見に行こう



天明3年(1783年)8月5日(旧暦7月8日)浅間山は噴火による溶岩を噴出した。それが山麓に流れ出し、土石を巻き込む土石なだれとなって、時速100km以上のスピードで火口より12km離れた鎌原村を襲った。鎌原村は5~6mの深さで埋まったり、流されたりして唯一残ったのは観音堂だけだった。477名の命が奪われた。この土石なだれは、吾妻川利根川に入り、泥流や洪水となって利根川河口の銚子、または、江戸川を流れ、東京湾まで達した。



鎌原観音堂



鎌原33回忌供養塔



旧新井村  
逆水寛流信女の墓

▶土石なだれは、吾妻川に入り泥流となって「幻の村」と呼ばれようになった長野原の新井村始め、長野原村をも押し流した。200人以上の命が奪われた。旧新井村の墓地には亡くなった墓がある。噴火災害から30年後には亡くなった方々の供養のために地蔵菩薩が雲林寺参道に建てられた。



雲林寺  
地蔵菩薩 (文化10年建立1813年)



主な天明3年供養塔所在地



野田関宿水神社 供養塔

▶埼玉の幸手を川津波のように流れ下り、千葉の関宿に達する。洪水となった中を流死者が流されていく。関宿で利根川は江戸川にも流れる。利根川を流れ下ったものは、銚子を通り、太平洋に達している。東庄町の禅定院に天明3年の供養塔が静かに佇んでいる。江戸川に流れたものは、帝釈天近くの矢切の渡しや河口の近くにあった毘沙門洲にたくさん流れ着いている。近くの住民が流死者を手厚く葬り、供養塔を建てた。その時の状況が唱われている善養寺和讃がある。



柴又帝釈天 (題経寺) 供養塔



千葉県東庄町禅定院 供養塔



東京都江戸川区善養寺 供養碑



東吾妻善導寺 供養塔



中之条林昌寺 供養塔



渋川真光寺 流死墓



渋川金井 流死墓



前橋元景寺 供養塔



伊勢崎戸谷塚天明地蔵碑

▶利根川岸に700人あまりの遺体が流れ着き、翌、天明4年に戸谷塚の人々の手で建てられた天明地蔵尊がある。また、昭和37年に嬭恋村と長野原町で建立された供養碑も並んでいる。毎年旧暦十月十日の前日に供養祭が行われ、浅間山噴火大和讃や戸谷塚和讃が唱えられている。

## 天明3年以降の関東一円の様子

火山灰は関東一円に降り、銚子や江戸(東京)では昼間でも夜のように行灯(明かり)を灯した。そのあと、気候が不順になり、天明の飢饉が本格的になる。利根川、江戸川では泥流で川底が上がり、雨が降るとすぐに洪水になり長年苦しめられ続けることになる。天明年間、銚子は飢饉に見舞われ、領民を救った庄川左衛門の頌徳碑が建っている。



銚子 供養塔

## 浅間山とともに未来へ

浅間山(標高2,568m)は群馬県と長野県の県境に位置し、今でも活動を続けている火山である。天明3年以前にも大きな噴火をしてきた。浅間山北麓はそのときの溶岩、火山灰や土石でなだらかな高原になっている。浅間高原は、夏は涼しく過ごしやすい。昼夜の寒暖差があり、甘くておいしい高原野菜がたくさん取れている。鳥、蝶や高山植物も豊かである。浅間山からたくさんの恩恵を受けている。日本は、地震、水害、火山活動などの災害が多くなってきている。海や山や大地など正しく自然を知り、この豊かな自然と共に生きていくことが大事である。浅間山と共に生きていこう。



伊勢崎中島 供養塔